私たちの色で地域を描く
パレット

令和３年度 新潟市地域コミュニティ協議会育成モデル事業事例集

はじめに

～ 持続可能な地域づくりに向けて ～

日ごろ、皆様からは、地域づくりに主体的に取り組んでいただいており心より感謝申し上げます。

地域コミュニティ協議会など地域団体の皆様の活動は、社会背景の移り変わりとともにますます重要になっている一方で、人口減少、少子・超高齢化により活動の担い手が不足するなど、将来にわたって活動を継続できるかどうかが大きな課題となっています。

この冊子は、持続可能な地域づくりを推進するため、地域コミュニティ協議会による活動内容や運営体制の見直し事例をまとめたもので、地域コミュニティ協議会だけでなく、自治会・町内会など他の団体においても取り組んでいただける内容です。

地域の未来をどんな色で描いていくかは地域の皆様次第です。

この冊子(パレット)上の様々な取組みを参考に、将来にわたって住みたいと思える地域づくりに取り組んでいただければ幸いです。

〈冊子中の表記方法〉
各地域コミュニティ協議会：〇〇コミ協、〇〇まち協など

もくじ

はじめに …… 1

01 これまでとこれからは違う！ なぜ見直しが必要か？ 変化に応じた持続可能な地域活動へ 2

02 これからの地域活動を考えるためのステップ …… 3

ステップ1 地域の将来に備える共通認識づくり …… 3

ステップ2 活動の現状を洗い出し、手の打ちどころを探る …… 4

ステップ3 住民の思いやニーズを探る 住民アンケートの実施 …… 6

03 地域に必要な活動を確実に行う体制づくり …… 9

04 地域のニーズに応え、課題の解決に取り組むポイント …… 11

ポイント1 人材を確保し育成する …… 11

ポイント2 多様な主体と連携＆役割分担する …… 12

ポイント3 活動をアップデートする ～活動の組み合わせ&検証～ …… 12

ポイント4 知ってもらう・参加を促す情報発信 …… 13

おわりに …… 14

01
見直しの必要性

これまでとこれからは違う！

なぜ見直しが必要か？ 変化に応じた持続可能な地域活動へ

人口は減り、高齢者の割合は増える 同じやり方ではできなくなる？！

加速する人口減少。注目したいのは世代構成の変化です。主に地域活動を担ってきた65歳から74歳の割合は減り、75歳以上の後期高齢者が増えています。要支援、要介護者の割合や、高齢者の1人暮らし世帯も増加していきます。行政による住民サービスや災害対応なども、増え続けるニーズに全て対応していくことが難しい時代になってきています。

3年後、5年後、地域を支える人は何人いるでしょうか。人口が減少しても誰もが安心して暮らし続けるために、今のうちに活動のあり方や助け合いを本気で考える必要があります。

新潟市の人口推移と予測

下表は、2015年時点の国勢調査の結果と2035年までの人口予測に、2020年の国勢調査の結果（2021年11月公表）を加えたものです。新潟市の人口は予測より前倒しで減少しています（特に生産年齢人口）。加えて、前期高齢者と後期高齢者の構成比が逆転しました。※予測値は国立社会保障・人口問題研究所による将来推計人口データ（2018年）より

	国勢調査データ				予測値	
新潟市	1995年	2005年	2015年	2020年	2025年	2035年
人口（人）	796,456	813,847	810,157	789,275	788,987	746,719
0～14歳	129,120	109,251	98,367	91,023	88,654	78,489
	20年間で23.8%減少					
15～64歳（生産人口）	546,361	534,104	488,815	450,987	453,594	412,742
	20年間で10.5%減少					
65歳～	120,408	166,995	217,107	230,990	246,739	255,488
	20年間で80.3%増加					
（高齢化率）	15.12%	20.52%	26.80%	29.27%	31.27%	34.21%
65～74歳	73,117	88,415	109,416	113,603	101,995	97,201
75歳～	47,291	78,580	107,691	117,387	144,744	158,287
75歳以上のうち85歳以上	10,108	20,440	34,908	41,255	51,105	71,015

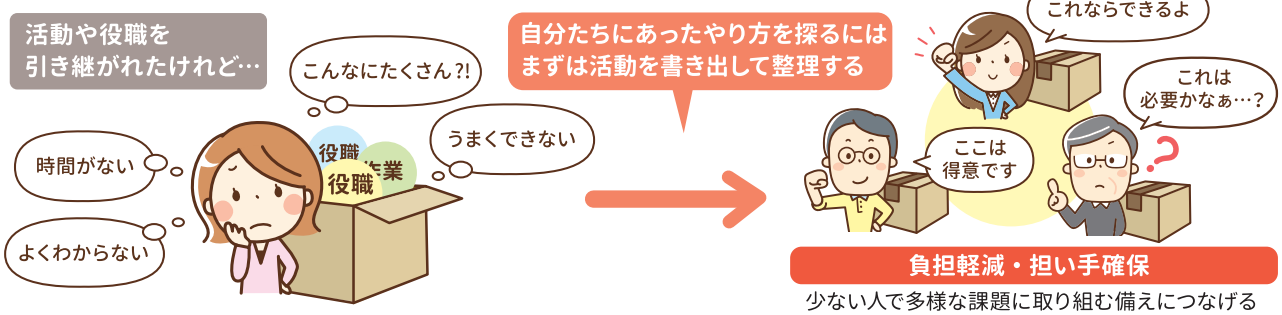
2020年の高齢化率 新潟県平均：32.8% 全国平均：28.6%　※世代別人口の数値には年齢不詳者を含まないため、合計は総人口数と異なります。

予測より人口減少は早く進行。
2025年の予測より前倒しで2020年の人口が少ない。

高齢世代の構成比の変化に注目！
地域活動の中心を担う65歳～74歳（前期高齢者）は逆転して減少し、75歳以上（後期高齢者）が増加。

住み慣れた地域で暮らし続けるために 自分たちで考えて工夫しよう！

地域課題が多様化し、人手不足の中で地域活動を継続するために、地域にとって真に必要な活動を見極め、今と次世代の担い手が動きやすくなるやり方に進化させましょう。では、どのように変え、地域に合ったやり方を自分たちで見つけていくか。まずは、活動実態（現状）を明らかにし、見直してみることです。「見える化」することで問題点の手の打ちどころが見つけやすくなります。そして地域住民の声を聴くこと（ニーズ把握）です。必要な活動を見極める根拠になります。



負担軽減・担い手確保
少ない人で多様な課題に取り組む備えにつなげる

02
地域とコミ協の現状把握

これからの地域活動を考えるためのステップ

地域活動を見直し、必要な取り組みやしくみを考えるにはどのようなステップで進めたらいいのでしょう？
令和元年から２年度まで実施した「地域コミュニティ協議会育成モデル事業（以下、モデル事業）」の事例を用いて紹介します。

ステップ 1 地域の将来に備える共通認識づくり

「何のために見直しをやるのか、どこに向かうのか」を共有することが重要。人口データなどから将来の姿と起こりうることを理解し、組織全体で進める一体感をつくります。

ステップ 2 活動の現状を洗い出し、手の打ちどころを探る

現在、コミ協活動にかけている時間と人数、内容や成果を「見える化」します。負担軽減と必要な活動を行う体制の見直し、内容の向上に生かします。

ステップ 3 住民の想いやニーズを把握する

住民が地域や地域活動についてどう考え、何を求めているのかを把握し、必要な活動を判断します。中学生以上住民アンケートなど、幅広い世代の声を聴くことが大切です。

各ステップごとに必ず対話を行い、将来に向けた取り組みやしくみの案を考える。

ステップ 1 地域の将来に備える共通認識づくり

地域はこの先どうなるのか…？ 将来の姿を明らかにして共有することで、活動の方向性が描きやすくなります。まずは勉強会と意見交換を行いましょう。

坂中まち協

小合コミ協、坂中まち協、有明台コミ協では勉強会を開催。地域カルテ(※1)や国勢調査など人口データから予測される将来の姿を専門家の解説を元に学びました。

加速する人口減少や、これからは後期高齢者が増加することを数値で確認、危機感を共有しました。家族で後期高齢者を支えられなくなる可能性があることから、今のうちに支え合いのしくみづくりや無理のない活動へ見直しが必要、という声があがりました。

地域の状況に合わせた分析など、理解を深める作業を取り入れることで、実態がより明らかになり、自分ごとに捉えやすくなります。

人口データを活用

小合コミ協

※1 地域カルテ…新潟市では、中学校区単位での将来推計人口、健康データ、公共施設の配置等をまとめた地域カルテを作成しました。市ホームページに掲載されています。

ステップ 2 活動の現状を洗い出し、手の打ちどころを探る

活動を洗い出す２つのケースを紹介します。下記の「**棚卸し表**」などを自分たちでアレンジしても良いでしょう。洗い出し後に、関係者で出された情報を見渡して改善するポイント（＝手の打ちどころ）を探ります。

棚卸し表のダウンロードはこちら▶
新潟市ホームページより

活動の量を洗い出す場合

活動の数、かけている時間と人数を書き出します。負担や非効率なところを見つけて実施体制を見直し、必要な活動に力を注ぐための時間や人員を生み出します。

月ごとの活動回数と時間

表の上段：活動の回
表の下段：所要時間

4月	5月
2	1
30	1

企画から準備、開催、報告など事後作業まで、かけている人数と時間を記入。具体的な作業内容を記入するとわかりやすいです。記入後は年間を通して作業が集中する時期はないか、特定の人への偏りがないかなどを確認しましょう。

小合コミ協棚卸し表

check!

check!

～会議・組織の棚卸し～年間の活動と関わる会議や作業を洗い出してみましょう～　団体名：小合コミ協（全体）　記入者名：コミ協役員　記入日：R1年12月9日

事業・会議名等（打合せや地区外での開催も含む）	関わっている人数	表の上段：活動の回数（企画から準備、実施、事後作業） 表の下段：所要時間 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計
役員会(毎月) 担当：	6	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
	コミ協役員(6)	30	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	151
会長書類確認 担当：	1	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
	コミ協会長(1)	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	720
企画委員会 担当：	18	1												1
	コミ協役員(6)、専門部正副部長(10)、事務員(2)	32												32
常任運営委員会 担当：	22	1		1						1	1		2	6
	コミ協役員(6)、自治会町内会長(14)、事務員(2)	44		44						44	44		88	264
会計監査(4/12) 担当：	7	1												1
	コミ協役員(2)+会計監査委員(3)+事務員(2)	18												18
代議員総会(4/20) 担当：	60	1												1
	コミ協役員(6)、会計監査委員(3)、事務員(2)他	120												120
コミ協まつり(8/4) 担当：	100			5	8	7	4							24
	コミ協役員(6)＋事務員(2)他			34	100	560	12							706
コミ協芸術祭(11/10) 担当：	8						2	2	2					6
	コミ協役員(6)＋事務員(2)他						16	16	166					198
コミぶら散歩(7/13) 担当：	12			3	2									5
	コミ協役員(6)、文化教養部(4)、事務員(2)			72	72									144
学校行事 担当：	行事内容	5小中学校入学式 27中学校歓迎遠足会	18小合中ウォーキング 25小合小学校運動会 29育成会総会	7育成会関係者会議			7小合中学校体育祭	26育成会慰謝金&合唱祭	3小合中ゲリーンボランティア	6小合東っ子まつり 11小合東小学校評議会	小合中学校評議会		3小合中卒	
	1	4	3	1			1	1	1	2	1		2	16
	コミ協役員(1)	7	10	2			3	4	3	2	2		4	37
合計	活動回数	30	24	31	31	28	28	24	24	24	23	21	2	313
	活動時間	311	81	223	243	631	102	91	240	117	117	71	163	2,390

棚卸し表を活用！

check!

事業・会議名等

事業・会議名等（打合せや地区外での開催も含む）
役員会(毎月)
担当：

役員が担う任務や出席する会議、部会が担当する活動名を記入。地域内の主な活動も併せて作成すると、地域全体で課題に対応できているか確認でき、実施団体との役割分担の見直しに生かせます。

年間活動時間

16
37
25　313
63　2,390

活動ごとにかけている時間を集計。どれだけの時間・人数を費やしているのかがわかります。

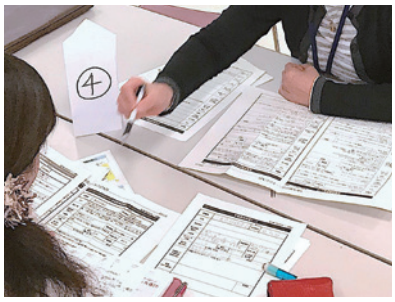
年間スケジュール型なので、総会の報告資料や地域活動の予定を記載した地域のカレンダー作成などに活用しやすい。

やってみました！

小合コミ協では、事業を行うためにどのくらいの時間をかけているか（会議や作業時間を含む）、洗い出しを行ったところ、年間5,000時間を超え、総活動回数は450回にのぼることが明らかになりました。自治会の会長も務める役員が、自治会活動も洗い出したところ、相当な仕事量を一人で抱えていたことがわかりました。

活動の内容や手順、関わる情報を一覧化する場合

活動内容を改めて確認し見直すことで、より一層住民ニーズを踏まえた活動に近づきます。一覧は引き継ぎ書になり、活動の継承にも役立ちます。



目的

何のために行っている活動か、達成する目標は何かを明記。携わるメンバー全員で共有しましょう。

協力者・協力団体

この事業の協力者や団体を明記。他の活動でも生かせる能性あり。

参加者からの感想や意見

ニーズ把握や活動の質を向上させるヒントになります。

人材の発掘

何かスキルをお持ちの方、活動の参加者などを記入。まめに声をかけ関係性を育みましょう。

坂井輪中学校区まちづくり協議会

活動実績評価シート

記入日：　令和2年1月18日

活動名	防災訓練		担当部会	坂井輪連合自主防災会 防火・防災部	
目的	・防災意識の啓発 ・実際の避難や救助、避難所運営が円滑に行われるよう、訓練において課題を洗い出す				
実施内容	地区内の小中学校3つに分かれ、避難所運営の訓練を個別に実施する（別紙チラシ参照）。				
実施期間と開催日	（実施期間）9月～10月 令和元年10月20日（日）9:30～12:00		実施場所	坂井輪中学校・坂井東小学校・新通小学校の各体育館	
対象者	坂井輪中学校区の各自治会、町内会			参加人数	約800名
かけている時間	約1	運営に関わる人数	約20名	事業費	0円
協力者・協力団体	協力者名・団体名		連絡先		
	（訓練指導）新潟市西消防署・新潟市防災士の会西区支部		—		
実施までの作業手順（事後も含む）	※準備やまとめなどをスケジュール形式で記入 ・防火部員を中心に、避難所別の内容を決定（約1カ月前） ・各学校単位で自治会長等役員会で説明会を開催（受付担当決定） ・案内チラシの作成、配布準備 ・当日必要となる機材を準備 ・各自治会へ案内チラシを全戸配布し、参加人数を把握 ・当日お手伝いいただく防災士の方々に派遣依頼し、各避難所へ割り振る ・当日の運営準備（段取り確認、道具類の準備） ・実施後の片付け、反省会				
成果（目的達成度）	・約800名の住民が参加し、半日をかけ防災訓練を行うことで、一定の意識啓発につなげることができた。 ・訓練の結果、○○や○○といった課題を新たに見つけることができた。		数値等 —		
参加者からの感想や意見	消防　行政依存から住民主体の訓練に移行しつつあるのでは、という声も聞かれた。				
評価 良かった点・引き継ぐこと	・毎年、自己満足ながらある程度の手応えはある。 ・参加人数が増加した。 ・今までの講演を聞くだけの訓練に対する不評の反省から、参加型の訓練に変更したことでマンネリ化から脱却することができた。				
評価 残念だった点・改善点	・毎年自治会長等が交代しており、過去に達成したつもりの課題が達成できなくなっている。 ・もっと実践にそった方法もあったのではと反省している。伝統ある事業でもあるし、先人の方々のやり方を変化させることは難しい。				
人材の発掘	今後、参加や協力の可能性がある人材名を書いてください。	○○　○さん（△△町内会）、◇◇　◇◇さん（☆☆団体）			
申し送り事項 次回への提案	上記のことを踏まえて、担当するメンバーの一部刷新もカンフル剤になるかと。ただ、根本的にやり方を変えるのではなく、新風を吹き込んでくれる担当メンバーの参加が欲しい。一部の担当者だけへの負担増では変革は難しいかと。				

※記入できるデータがない箇所は横線（ー）を入れてください。

check!　check!　check!　check!　check!

活動評価シートを活用

実施までの作業手順

作業や段取りを明記。自主的に動きやすくなります。

評価と申し送り事項

実施後に自己評価しましょう。次に引き継ぎ、生かすことでマンネリ化を防ぎ、活動の質を高めます。

やってみました！

坂中まち協では、部会ごとに活動内容を洗い出して自己評価する「活動実績評価シート」を作成。活動を改めて見直し、全役員で共有することでお互いの活動への理解が深まりました。意見交換では改善の提案や励ましが多く出され、活動を統合して効率化を図るアイデアなども出されました。

事業内容が一目でわかるので、新任への引き継ぎ書としても活用できます。

ステップ 3 住民の思いやニーズを探る 住民アンケートの実施

「住民アンケート」は、さまざまな理由で日頃の思いを伝えられない方々の意見を吸い上げることができる方法です。地域の明るい未来へ向けた取り組みを検討するため、幅広い世代を対象に行いましょう。数字や数量で結果を得られるので、課題解決に取り組む優先順位をつける参考になり、活動を見直す裏付けになります。

集計結果・分析は共有することが大切です。住民の関心が高まり、課題を自分ごとに考えるきっかけになります。

地域の声を確実にとらえる住民アンケートを行うには？

●目的と結果の生かし方を明確にし、組織内で共通認識を持つ

アンケートの実施が目的とならないよう、「何のために行うか」「どう生かすか」をまず明確にします。自治会・町内会の協力も必要で、時間と労力もかかります。勉強会などで目的や生かし方、作業内容などしっかりと共有しましょう。

小合地域コミュニティ協議会　まちづくりアンケート

回答は10分程度で終了します

Q1. あなたの年齢・性別・住まいについてあてはまるものに○を付けて下さい。
Q1-1　1. 男性　2. 女性
Q1-2　1. 10代　2. 20代　3. 30代　4. 40代　5. 50代　6. 60代　7. 70代　8. 80代～
Q1-3　1. 東部（大面・東宮・小戸上組・小戸下組）　2. 南部（小屋場・梅ノ木・浦興野・川根）　3. 西部（出戸・子成場・四ツ興野・黄昏根・大秋・芽方）

Q2. あなたのお仕事について、あてはまるもの全てに○を付けて下さい。
1. 農業（主に花卉・花木）　2. 農業（主に米穀）　3. 農業（主に青果）　4. 林業　5. 漁業　6. 自営業　7. 会社員　8. 専業主婦（夫）　9. パート・アルバイト　10. 公務員・団体職員　11. 中学生　12. 高校生・高専生　13. 大学生・短大生・専門学生　14. 無職　15. その他（　　）

Q3. 日常の主な交通手段は何ですか？あてはまるもの１つに○を付けて下さい。
Q3-1　1. 自動車　2. バイク（原付を含む）　3. 電車　4. バス　5. タクシー　6. 自転車　7. 徒歩　8. その他（　　）
Q3-2　あなたは自動車運転免許を保有していますか？　1. 免許を持っている　2. 免許を持っていない

Q4. あなたはインターネットや電子メールを使っていますか？
Q4-1　1. はい　2. いいえ
↓「はい」を選んだ方のみお答え下さい。
Q4-2　主な使用機器は何ですか？（あてはまるもの全てに○を付けて下さい）　1. パソコン　2. スマートフォン・タブレット　3. ゲーム機　4. スマートフォン以外の携帯電話　5. テレビ　6. その他（　　）
Q4-3　SNS（Twitter/Facebook/LINE/Instagram など）を利用していますか？　1. はい　2. いいえ

●質問は答えやすいように設定する

このアンケートは住民個別の要望を聞くのではなく、幅広い世代の意識や認識を「見える化」するためのものです。質問はどの年齢層でも答えられる内容にします。数値化できる選択肢形式を中心とし、自由記入は最小限にします。

●各世代の声を把握するため世帯ではなく個人が回答する

世帯に１通だと、世帯主など年配者が回答する傾向があり、高齢世代に寄った結果になりがちです。少数派の若い世代の声も反映させるため、中学生以上を対象に１人１通で回答してもらいます。１通ずつ封筒に入れ、プライバシーに配慮しましょう。

●今後の活動に生かすため、回収率を高める

今後の活動に生かすため幅広い声を集めるには、回収率を高めることが重要です。そのため、調査票の配布・回収は手渡しを基本としています。自治会・町内会に協力してもらい、確実に回答を得られるようにしましょう。

小合コミ協と坂中まち協では住民アンケートを実施。詳細は新潟市ホームページで紹介しています。

詳細はこちらから▶

[新潟市ホームページ] https://www.city.niigata.lg.jp/kurashi/shimin/community/model_present.html

坂中まち協は大規模です。全住民にアンケートを取ることは難しいと判断し、坂井輪地区内の３つの小学校区のバランスを考慮して対象とする自治会を絞り、約3,000人の住民と、坂井輪中学校２年生全員に依頼しました。

データ入力説明会には約20人が参加（写真）。エクセルを使った入力方法を学び、手分けして入力作業を行いました。結果は活動実績評価シートとリンクさせ、今後の活動へ生かしていきます。

アンケートの結果を読み解くには？

アンケートの回答は全体を単純集計するだけでなく、世代別や性別でも集計します。世代間のギャップが浮き彫りになるなど結果から読み解けることが増え、課題が深掘りしやすく、手の打ちどころを見つけやすくなります。

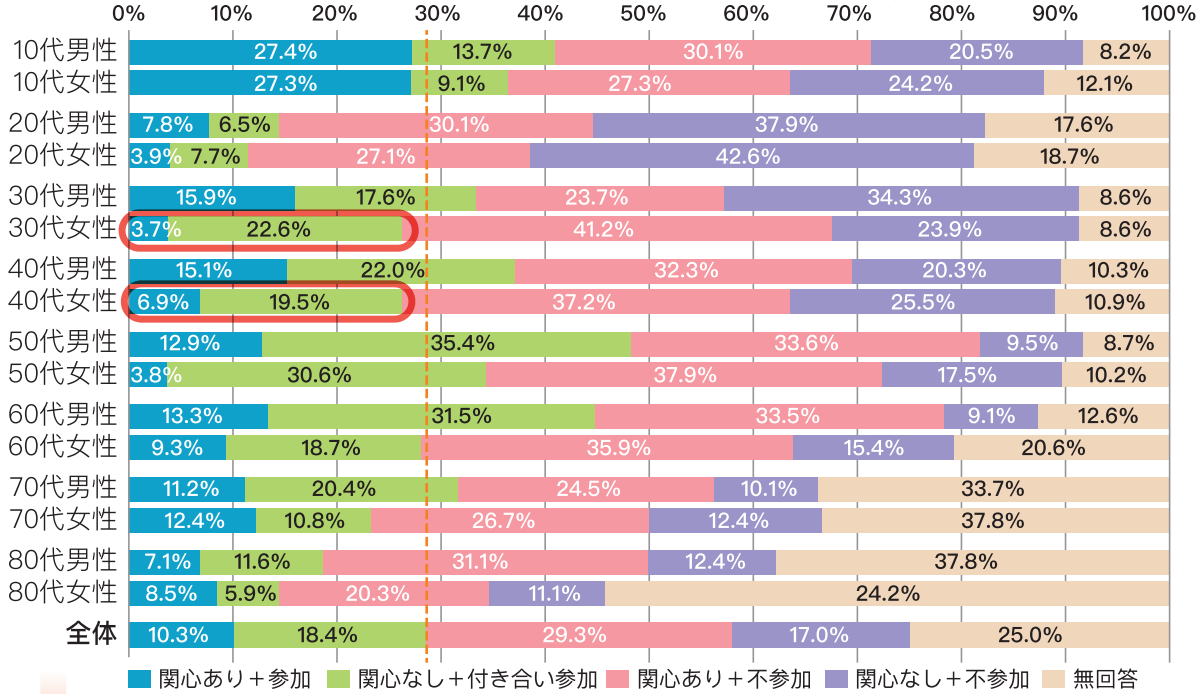
（例）小合コミ協の住民アンケートより抜粋（令和元年度）

設問

「地域活動への関心・参加の有無について」

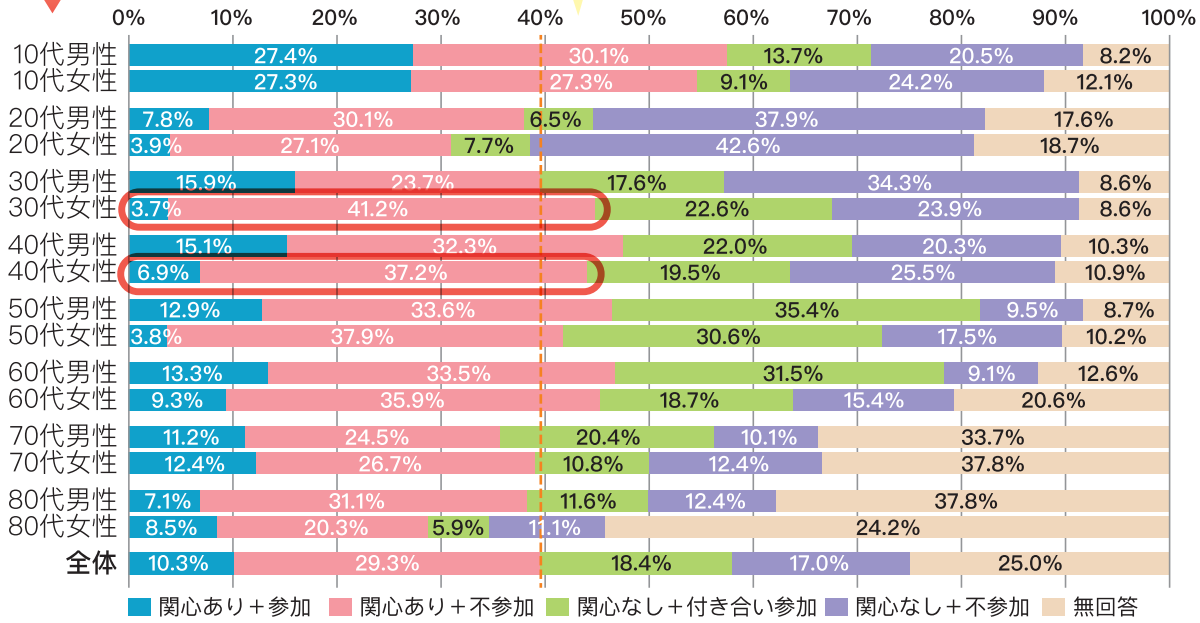
参加のあり、なしでまとめました

例えば、30代、40代の女性で活動に参加している人は3割に届きません。



関心あり、なしでまとめました

30代40代女性の「関心あり」は4割を超えています。参加していない理由を対話などで探ってみましょう。



「勉強会」→「活動の洗い出し」→「ニーズの把握」
その都度必ず「意見交換」を行い、見直し案をつくる

コミ協や地域の現状を把握する作業では、必ず事業に携わる人たち同士の意見交換も取り入れましょう。意見交換により明らかになった数値の捉え方や手の打ちどころ、解決のアイデアなどを多様な視点で集めることで、より良い見直し案を作成できます。また、現状把握の結果を地域内にお知らせすることも大切です。地域の課題やコミ協の意義、活動の認知を広げることにつながります。

坂中まち協のケース

コミ協活動の認知度の低さを徹底的に分析

坂中まち協が行なった住民アンケートでは、まち協の活動の認知度は全体の半数が「名前だけ知っている」でした。内容はあまり知られておらず、特に20代は「知らない」が半数以上です。

あいさつ運動や花植えなど、目にしやすい活動は認知度が高いです。40～50代女性は認知度や関心も高く、子どもに関わることが要因と考えられることから、女性の力やネットワークを生かす活動、情報発信の見直しを進めようとしています。

「坂井輪地区は住み良い」「今はあまり困っていない」と考える住民が多いと捉えられましたが、「住み良さ」を維持するため、将来の姿を想定しながら今から備える必要があることを共有しました。

《アンケート報告会後の意見交換より（一部抜粋）》

○坂中まち協の活動をもっと知ってもらわないと、今後の担い手がいなくなる。
○防災意識は高い。合同訓練は参加者1000人に達する。

→

○認知度を高める取り組みやPRが必要。
○坂井輪ジュニアレスキュー育成は底辺の拡大になる。

○今後10～20年に影響するから40代の若い世代の考えは大事
○子ども時代から地域ぐるみのつながり作りが必要。

→

○40代50代、子育て世代への働きかけ。人口減少の防止につながる！
○親子で参加できるスポーツなどの事業拡大をしてはどうか。

小合コミ協のケース

アンケート結果から取り組む課題が明らかに

小合コミ協では、アンケート結果を受け、重点的に取り組む事業（地域課題の解決につながる）は「実施する」、実施を検討するものは「実行委員で検討する」など、ランク付けしました。優先項目から着手しています。

活動の洗い出しでは、コミ協役員の業務がかなり多いことも分かり、コミ協主体でやらずに、地域内の意欲ある人が中心になって行う実行委員会形式も取り入れるようにしました。

SNSの勉強会を開催

小合コミ協ではアンケート結果で住民のインターネットやSNS利用率が高い数値を示したことから、市の補助金を活用し、LINEとFacebookの勉強会を8回開催しました。今では操作もだいぶ慣れて、役員同士の連絡はLINEでやり取りしています。

県内でも、アンケート結果報告会後に参加者がSNSの活用を進めようと提案し、自分が講師になって勉強会を行ったコミュニティ組織があります。

小合コミ協のLINE勉強会の様子

03
運営課題の
解決に向けて

地域に必要な活動を確実に行う体制づくり

コミ協だけでなく多様な主体と協働で取り組む

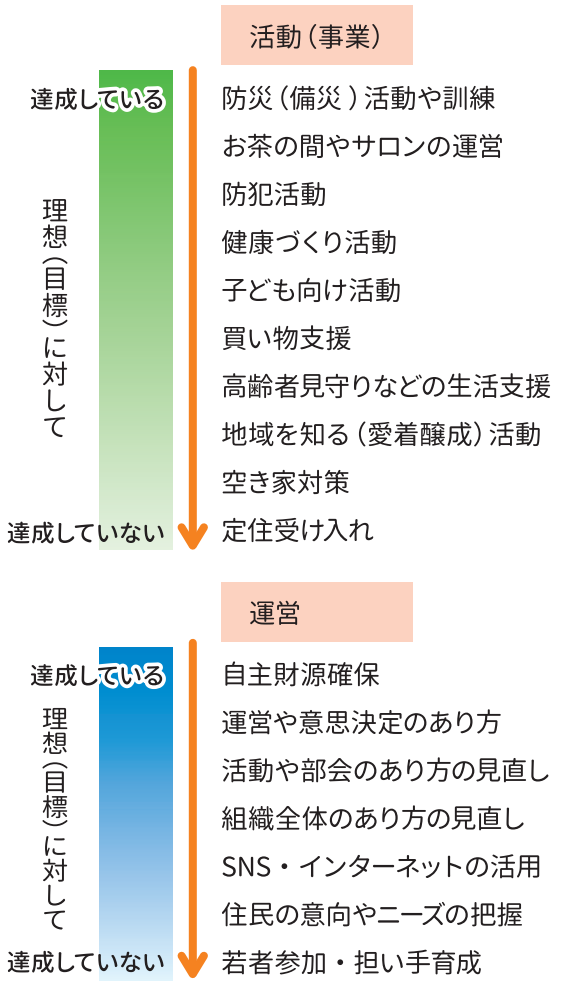
コミ協が行う地域活動は、「福祉」「防災・防犯」「教育（地域への愛着醸成）」「環境（美化）」「広報」などが主な柱となっています。日常生活に身近な自治会・町内会の活動に比べ、広域的な課題への対応が求められています。

令和２年度に市内全コミ協を対象に、柱とする活動の実態アンケートを行い、実施頻度や達成度などの「理想（目標）と現状」を5段階評価でうかがいました。回答を通して活動を見直す機会にもなり、「できていること、できていないこと」が浮き彫りになりました。

できているところが多かった「地域のお茶の間運営」「防災活動や訓練」は、コミ協でなく自治会や町内会が主体で行う地域もあります。自治会や町内会の事業をコミ協がサポートしたり、複数の団体と役割分担しているケースもありました。課題の捉え方、体制や進め方は多様です。

少ない人数で必要な活動を行うには、広域で多様な主体と助け合うことは必須です。人手やノウハウが足りずにうまく進まない場合は、他団体と実施体制を組むことや、任せることも一つの手です。地域全体で取り組むという視点で、多様な資源を活用した運営体制を考えてみましょう。

●主な地域活動に対する「理想（目標）」と「現状」の回答結果（R2コミ協アンケートから）



達成している背景

- 広域での実施が効果的
- 自治会・町内会で実施できないためサポート
- 緊急性が高い
- コミ協が各種団体をつなげられる

理想に達成していない背景

- やりたくてもできない
- 他の団体が行っている
- 課題になっていない（解決が必要でない）

地域ごとの個別事情や他の団体の取り組み状況によって、運営や活動のあり方は多様であり、課題解決への取り組み方は異なります。
必要な活動の実施体制は、地域全体で捉えてみましょう。

どこにでも効く 万能の解決策はない
～事例から学び、自分たちで考えて決める～

コミ協の運営と活動状況は個別で多様です。万能の解決策はなく、地域をよく知る住民自身が実状に応じて考えていかなければなりません。市内には運営を工夫し、限られた人数で必要な活動を行っているところや、課題解決に取り組んでいるコミ協が複数あります。

令和３年度のモデル事業では、人口や面積の規模、環境、活動実態などの違いを踏まえ８つのコミ協にヒアリングを行いました（次ページより解説）。自分たちと似たような状況の地域から学ぶことが効果的です。アイデアだけをキャッチするのではなく、課題の背景や、深堀りの仕方、段取りまで探ってみましょう。

令和3年度ヒアリングから

		地域概況	運営概況
東区	新潟市木戸地域コミュニティ協議会 人口 16,981人　高齢化率 27.1%	地区内に小学校が２つある大規模な住宅エリア。大規模商業施設や幹線道路が隣接。	地区内を３つに分け、担当役員を配置し、地域ニーズを吸い上げる。
北区	松浜地区コミュニティ協議会 人口 11,892人　高齢化率 31.1%	近隣一帯の中心地で、昔ながらの商店街や漁港がある住宅地。	自治振興会や産業系をはじめとする各種団体、大学などと連携して事業運営。
中央区	万代地域コミュニティ協議会 人口 7,726人　高齢化率 22.4%	昔ながらの住宅地と商店街、マンションなどの集合住宅が混在し、万代シティや新潟駅に近接する中心市街地。	昔から住む方々が活動の中心。周辺コミ協との連携事業もあり。
西区	コミュニティ佐潟 人口 6,434人　高齢化率 28.1%	佐潟を有する昔ながらの農村地帯と、開発された新興住宅地や大学がある地域で構成されている。	会長に集中していた業務や偏りのあった活動や運営を、会長交代を機に見直し中。
江南区	早通小学校区コミュニティ協議会 人口 4,320人　高齢化率 26.8%	鵜の子ICや市街地（商業地）が近いが、居住エリアは農村地帯。工業団地もあり。	会長と事務を担う地域教育コーディネーターが中心となって運営。
南区	庄瀬地域コミュニティ協議会 人口 2,525人　高齢化率 35.1%	信濃川に隣接し、田園と果樹畑が広がる平坦な農村地帯。田上町との境界。	生活センターを拠点に、会長とセンター長が中心となり、地域内の人材や団体を巻き込んで事業実施。
秋葉区	新関コミュニティ協議会 人口 1,903人　高齢化率 40.3%	新津丘陵と阿賀野川に囲まれた農村地帯。五泉市との境界。	地域づくりの理念に基づき、課題に応じた活動計画を毎年作成。実施後に検証も行う。
西蒲区	角田地区コミュニティ協議会 人口 1,342人　高齢化率 36.1%	角田山麓で砂丘の高低差のある農村地帯。海水浴場やワイナリーあり。越前浜自治会はR2まで移住モデル地区。	部会が主体となって事業運営。会長・事務局長が調整やバックアップを行う。

市街地　新興住宅地　商業　商工業　田園　農漁業　海　山　里山　河川　潟　砂丘　果樹

※人口・高齢化率は国勢調査2015年データ（年齢不詳者を除く）

04
組織運営の工夫

地域のニーズに応え、課題の解決に取り組むポイント

市内のコミ協や各地の事例から、運営や課題解決の取り組みに関する工夫を4つのポイントで整理しました。実際にどのように取り組むかは地域の状況や資源によって異なります。事例を参考に考えてみましょう。

ポイント1 人材を確保し育成する

「人手が足りない」「声をかけたけれど断られた…」とよく聞きます。新たな人材を誘うときは、何のために活動するのか、具体的になにをやるのか、参加するとどんな意義やメリットがあるかを「見える化」して伝えると共感が得やすくなります。

地域活動に参加する動機・参加したい理由

- 地域が良くなる　●暮らしが良くなる
- 誰かの役に立つ　●喜ばれる・楽しい
- 人との関係（仲間づくり）ができる　●成長できる
- 地域のことがわかる　●知り合いがいる
- 頼まれた＝信頼されている、人柄や能力が認められている証！

あなたもこの動機で活動を始めたのでは？

本気で「探していない」「誘っていない」ケースも実はあります。事業に参加してくれた人は活動に関心があるかもしれません。感想やアイデアを聞くなどして関係づくりをはじめ、少しずつでも活動に参加するきっかけにつなげてみませんか。コミ協役員には幅広いネットワークをお持ちの方も多く、地区内外問わず一緒に活動してほしい方を、まずはコツコツと誘ってみましょう。

人材育成・活動継続がうまくいくポイント

〈参加する人にとって〉
- やることがわかりやすくなっている　●押し付けられない　●助けがある
- 負担がない　●否定されない　●受け入れられる　●認められる
- ほめられる　●得意が生かせる　●任せられる　●やりたいことができる

活動に関わるイメージを伝えよう

単発的でなく、継続参加や活動の担い手としての育成も必要です。担い手候補を信じて任せ、動きやすいようバックアップすることが大切です。

引き継ぎ書を見せるのもいいね！
5ページ参照

事例　角田地区コミ協

和やかな明るい雰囲気の中で、関わる人の自主性を尊重している。手伝ってほしいことはそれが得意な人に声をかける。長所や得意分野を生かして任せているので活動が生き生きしている。若者や移住者にも積極的に声をかけ、活動に参加してもらっている。

各事業は基本的に部会で立案して実施。部会メンバーは日頃から住民とつながってニーズを捉えているため、信頼してやりたいことを進めてもらっている。補助金申請も部会で行う。会長・事務局長は調整役。

意見やアイディアを言いやすい部会の様子

〈各コミ協の声〉
- 任せることが基本。口や手を出したいが我慢。でも大切なことや守ることは伝える。
- ルールは単純化、仕事は明確化。
- 活動の参加者から徐々に育成。
- センター職員がことあるごとに若者に個別に声をかけ、活躍の場を設けている。
- 新人役員には仕事をある程度自由に任せ、周囲はアイデアを出して応援。力を発揮しやすくしている。
- 防災事業は女性目線の備えにも力を入れる。
- 地域の良さをわかってもらえることが人材育成につながる。コミ協の事業が地域の良さを伝えることになる。
- 人とのつながりがしっかりと感じられるようにする。空き店舗・空き家を活用した移住は、地域の理解と支援があったからうまくいった。

ポイント2 多様な主体と連携＆役割分担する

コミ協活動に長年携わる経験豊富な人材は頼もしい存在です。ですが、いつの間にか「この人がいなくなったらできない」状態になっていませんか？ 組織内外問わず多くの人が関われるような体制やしくみに転換することも考えていきましょう。多様な人や団体、企業と連携、役割分担することは負担の軽減、協力者の確保、次世代の育成につながり、何より活動のアップデートが期待できます。

活動の目的や関係する情報を共有し、誰でもできるようにしましょう。新たに実行体制を組む場合は、役割や任務も「見える化」すると動きやすくなります。

多様な主体と連携＆役割分担のポイント

- 「誰でもできるように」任務と作業の「見える化」と「共有」
  →助け合い、円滑な運営、引き継ぎにも役立つ
- 目的（理念）、目標、方針の共有
  →理解できると自分から行動を起こしやすくなる
- 各自の経験・専門性・得意を生かすWin-Win（お互いにプラス）の役割分担
  →効果が高まり、継続しやすい。「関わる人」や「できること」が増える
- ゆるやかにつながる関係性を大切に
  →できる部分だけ関わるのもOK！ 分担しながら気軽な参加や協力を促す

手を取り合って住民ニーズや課題に向き合おう

事例 木戸地域コミ協

人口、面積とも規模が大きいため、地域内を3つのエリアに分け、担当役員を配置。経験豊富な事務局が実務面を支え、会長とエリア担当役員がリーダーシップを発揮している。自治会からコミ協、区自治協議会(※)へと意見を吸い上げ、戻すしくみを機能させ、区自治協議会にも積極的に提議している。

行政、社協、学校など公的団体のほか、健康づくり活動ではスポーツ施設と、空き家活用調査では不動産会社などの民間企業とも連携。

(※)「区自治協議会」…市の附属機関

コロナ禍で活動縮小の最中に制作した「木戸の支え合いガイドブック」。高齢者の悩み相談先、探検マップ、サークル紹介など満載。表紙のイラストは木戸中学校の生徒作

〈各コミ協の声〉

- 役員会を通じて地域課題を吸い上げる仕組みがあり、各部会の情報も共有されている。
- 課題ごとにプロジェクトチームを結成。協力しながら進めている。
- 役員会の進行は専門部会が持ち回りで務める。ワガゴト化や内容の理解が進み、事務局の負担も軽減。
- 部会の枠にとらわれすぎない。
- コロナ禍の学童保育のためにオンラインで英語授業ができる人、口腔ケア活動で配布するお弁当を作れるお店など、地域で活用できるスキルや資金がどこにあるかを考えて連携。コミ協は人不足でも、協働で負担を減らし、実現できる。
- コミ協の産業経済部には地域産業に関わる人がいるため、商店街や企業との連携が円滑。
- 頑張っている団体には、ある程度独立して活動してもらい、コミ協がサポートする。
- 自治会にも温度差がある。やりたくてもできない活動はコミ協が軸となってサポート。

ポイント3 活動をアップデートする ～活動の組み合わせで負担軽減と効果アップ＆検証して質を高める～

少ない人数でも確実に実行するために、活動に優先順位をつけたり、共通点のある活動をまとめたり、負担のないやり方に変えてみましょう。内容のマンネリ化や地域ニーズとのずれを防ぐため、関係者同士の対話で見直し（検証）、参加者など外部の意見を聞くことで、活動の質を高められます。新しい取り組みには不安もあり勇気もいりますが、実験（お試し）という位置付けでやっても良いでしょう。うまくいかなければまた直せばいいのです。

完璧を目指さなくてOK！小さく始めて育てよう

活動をアップデートするポイント

- どの活動を重点的にやるのかなど、優先順位をつける。
  （住民ニーズや地域の課題に応じた活動が基本）
- 任務や作業を分散、統合することで、効率化させ、負担のないやり方にする。
- 活動や会議は「ついでにやる」など組み合わせる。（思いがけず効果が高まることもあり）
- 活動後はふりかえりを行う。（やりっぱなしにしない。次へ生かす）
- 住民ニーズや課題は日々の対話や気づきからもキャッチできる。
- 会計アプリやSNSなどのITサービスを使ってみる。
- いかに面白く、楽しくするかを意識する。

事例

新関コミ協

七夕の福祉の集いと敬老会を一緒に行い、子どもたちや福祉施設の高齢者が短冊を作成。にぎやかな七夕飾りとなった。事業を組み合わせることで対象が広がり、いろんな人が参加し喜んでいる。半年ごとに役員会で課題を出し合い年間活動計画を作成。事業実施後には検証を行い、マンネリ化を防ぎ次年度計画に生かす。

見附市北谷北部くさなぎコミュニティ

全住民アンケートと活動の洗い出しを行い、事業を見直した。健康ウォーキングと高齢者の参加が多かった歴史探訪ツアーを合体し、親子で楽しめる内容に変更。学校を通じて広報したところ、親子参加が予想以上に増加した 。

〈各コミ協の声〉

- 地域のニーズは日々の対話や雑談からキャッチ。
- コミ協活動に参加者した人々との交流を通して課題を拾う。
- 新たな住民には、なぜこの地域を選んだかを聞くようにしている。
- 地域課題に応じた部会づくりと話し合いによる計画づくり。
- 地域住民が喜ぶ・楽しめる活動、運営側も楽しめる活動をする。

ポイント4　知ってもらう・参加を促す情報発信

人手不足や参加者が集まらない一因として、コミ協とその活動が知られていないことが挙げられます。知ってもらうには、地域活動の情報に触れる機会を多くすることや、情報を手に入れやすくすることが大切です。また、活動内容を報告するだけでなく、なぜその活動が必要か、実施して何に役立っているかも併せて伝えると、活動への理解につながります。

情報発信のポイント

- 誰に何を伝えたいかを明らかにし、伝え方（表現・手段）を考える。
  若者はインターネット（SNS）、高齢者は紙媒体の広報誌など。
- 口コミは最も有効。直接住民と会えるときは広報のチャンス。
  拡げてくれるキーパーソンを活用。
- 活動報告だけでなく、活動予告を出す。（参加を促す）
- 活動の意義や楽しさも伝える。
  予告は日時・場所などの基本情報、報告は参加者の生の声も掲載。
- 発信1回あたりの内容は簡単でもよく、頻度が多い方がいい。
- 新聞掲載やTV放映は地域の人が喜ぶ。（積極的にプレスリリース）

事例

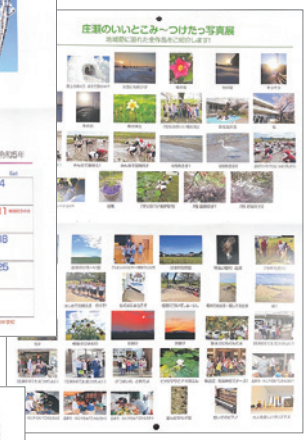
庄瀬地域コミ協

広報誌を年３回発行から、A4サイズ１枚の月1回発行に変更。表面はコミ協だより、裏面は庄瀬生活センターの通信にして、地域の多岐に渡る情報をタイムリーに発信。コミ協や地域活動を知る機会が増え、高齢者からは「楽しみにしている」との声がある。若い世代向けにSNSでも情報発信している。事前告知は事業の周知や参加促進につながっている。

A4サイズ１枚でまめに発行

コミ協に触れる機会が増える

コミ協事業の報告



地域事業、小中学校の行事も掲載。写真は住民投票によるフォトコンテスト入選作品を掲載

表面「庄瀬コミ協だより」

事前告知を入れて参加につなげる

裏面「もくば通信」

庄瀬地域生活センター事業やイベント、サークル案内

地域情報も盛り込む

「庄瀬のいいとこカレンダー」庄瀬コミ協制作

おわりに

本冊子の作成にあたり、令和元年度からモデル団体として多くのコミュニティ協議会の皆様からご協力をいただき心より感謝申し上げます。

モデル事業のヒアリング等を通して、コミュニティ協議会の皆様が安心して暮らせる地域づくりのために、悩みながらも意見を出し合い、前向きに取り組まれている数々の事例をお聴きすることができました。

今後も地域にとって大切なことを次世代へと受け継ぎ、社会の大きな変化に対応していける持続可能なコミュニティづくりに向けて、市と協働のパートナーとして共に取り組んでいただきたいと思います。

地域コミュニティ協議会への支援に関する窓口

区	担当課	電話番号	電子メール
北区	地域総務課	025-387-1165	chiikisomu.n@city.niigata.lg.jp
東区	地域課	025-250-2120	chiiki.e@city.niigata.lg.jp
中央区	地域課	025-223-7025	chiiki.c@city.niigata.lg.jp
江南区	地域総務課	025-382-4624	chiikisomu.k@city.niigata.lg.jp
秋葉区	地域総務課	0250-25-5670	chiikisomu.a@city.niigata.lg.jp
南区	地域総務課	025-372-6605	chiikisomu.s@city.niigata.lg.jp
西区	地域課	025-264-7172	chiiki.w@city.niigata.lg.jp
西蒲区	地域総務課	0256-72-8161	chiikisomu.nsk@city.niigata.lg.jp
	市民協働課	025-226-1105	shiminkyodo@city.niigata.lg.jp

発行：新潟市　市民生活部 市民協働課
951-8550 新潟市中央区学校町通１番町602番地1
Tel: 025-226-1105　FAX: 025-228-2230

作成協力：NPO法人まちづくり学校

令和4年3月